独立行政法人
国立特別支援教育総合研究所
NISE National Institute of Special Needs Education

対象：特別支援学級の担任

※最新版は
https://www.nise.go.jp/nc/report_material/research_results_publications/leaf_series
から直接ダウンロードできます。

特別支援教育リーフ Vol.3

学習や生活を豊かにするICT

独立行政法人　国立特別支援教育総合研究所

ＩＣＴを使って学習や生活を豊かに

障害のある子供たちの特性は様々ですが、何がうまくできないのか、何につまずいているのかをとらえてから活用を考えることで、より効果的なICT による支援が実現します。障害特性のために学習を進めていく上で大変な苦労をしている子供たちが、ＩＣＴを活用することで、学習活動の本来の目的に向かって取り組むことができるようになり、さらに学習活動やコミュニケーションの意欲を高めることにもつながっていきます。障害のある子供たちにも、ぜひＩＣＴの活用を進めていきましょう。

◆障害のある子供たちにとってＩＣＴは子供たちの努力だけでは解決できないことを大きく減らして、学習活動やコミュニケーションの本来の目的に集中しやすくするためのツールになります。
◆「何がうまくいっていないのか」「何を目的とするのか」「どのようにＩＣＴを活用するのか」を考えて取り組むことが、効果的なＩＣＴの活用につながります。

困難さのある子供たちへのＩＣＴ活用

GIGA スクール構想の進展により、全国の小学校・中学校等では一人一台端末の整備が進み、ＩＣＴを活用することは学校の教育活動の一部となりつつあります。ただ、障害による特性のため、障害のある子供たちにはＩＣＴの使用は難しいと思われてしまうこともあります。では、そうした子供たちはＩＣＴを使いこなせないのでしょうか。子供たちの状態は様々ですが、ICT を効果的に活用することで、努力だけでは解決できない課題を解決したり活動上の苦労を大きく軽減できたりする場合があります。

学習やコミュニケーションを支えるためのＩＣＴ活用

障害のある子供たちは、次のようにその特性のために学習活動に参加することやコミュニケーションをとることに困っている場合があります。

≪読む≫先生の話を聞いて理解できるが、教科書の文章を読んで理解することは難しい	タブレット型端末の読み上げ機能を使って音声で文章を耳から聞くことで学習内容が理解できるようになりました
≪書く≫板書をノートに書くことに時間がかかり、話し合いや考えるための余裕がない	タブレット型端末のカメラ機能を使って板書を写真として記録することで、書くことへの負担が軽減し、話し合いや考えるための余裕ができました
≪伝える≫文字を書くことに時間がかかり、文字で思いや考えを伝えることが難しい	キーボード入力、音声入力などの方法を使うことにより、積極的に自分の思いや考えを伝えられるようになりました

同じように「読めない」「書けない」と見える子供であっても、それぞれの子供の状態や活動の目的によって、考えられる支援の方法は変わってきます。

ＩＣＴを活用して、子供たちの努力だけでは解決できない活動を減らすことにより、子供たちは学習活動の本来の目的に向かって取り組むことができるようになります。「分からなかった」ことが「分かるようになる」ことは子供たちに「もっとやってみよう！」「がんばろう！」という意欲をもたせることにつながります。学習活動やコミュニケーションの意欲をもった子供たちはより積極的に活動に取り組むようになり、さらに成長していきます。ＩＣＴは、子供たちが本来もっている可能性を広げることのできる支援ツールなのです。

授業本来の目的に向かう余裕を作るＩＣＴ活用

ＩＣＴは非常に強力な支援ツールになる可能性がありますが、どの子供にも同じように効果があるわけではありません。子供たちは何がうまくできていないのかをとらえ、ＩＣＴを活用する目的を考え、実際にどのようにＩＣＴを活用していくのかを検討することで効果的なＩＣＴを活用した支援を行うことができます。「板書が苦手な子供」を例に説明します。

≪何がうまくいってないのか≫

「黒板の字が見えにくい」「黒板の字が理解できない」「ノートに目を移す間に書かれている内容を忘れてしまう」「文字を書くことが難しい」「鉛筆を持つことが難しい」など、考えられる原因はたくさんあります。まずはその子は何がうまくいってないのか、何につまずいているのかを細かくとらえましょう。

≪何を目的とするのか≫

「板書の時間や負担を減らすことで、話し合ったり考えたりするための余裕を作る」など、学習活動での子供の本来の目的を考えましょう。

学習活動でのＩＣＴを活用する目的をはっきりさせることが、ＩＣＴを活用した支援の第一歩となります。

≪どのようにＩＣＴを活用するのか≫

原因が、「黒板の字が見えにくい」のであれば、タブレット型端末のシャッター音のしないカメラで撮影した画像を拡大するという支援も考えられます。「文字を書くことが難しい」ということであれば、タイピング入力や音声入力、黒板をタブレット型端末のカメラ機能で撮影するという方法も考えられます。子供の実態を入り口に、様々な支援方法を検討してみましょう。

時には、最初に考えた支援方法がうまくいかない場合もあります。その時は「何がうまくいってないのか」「何を目的とするのか」「どのようにＩCT を活用するのか」をもう一度考えることで、支援方法が子供に合っていたのかを再検討し、より効果的な支援方法を探していくことが大切です。

このようにＩＣＴを活用することで、子供たちは本来もっている力を十分に発揮して学習活動に取り組んだり、コミュニケーションをとったりすることができるようになります。子供たちのより豊かな学習や生活の実現を目指して、障害のある子供たちにも、ぜひＩＣＴの活用を進めていきましょう。

☆さらなる理解のために☆

まずはＩＣＴを活用してみましょう

「障害のある子供たちの支援にＩＣＴが有効ということは分かったのですが、どのように授業等の場面で使ったらよいのかが分かりません」という話をよく聞きます。障害のある子供たちの特性は様々であり、ＩＣＴを活用する目的も様々です。ある子供に有効だった活用方法が他の子供には有効でない場合もあります。以下に、特別支援学級での活用を中心に、ＩＣＴを活用するための考え方や活用事例についての資料を紹介しますので、それぞれの子供たちに最適なＩＣＴの活用を考えるための参考にしてください。

＜参考情報＞

○群馬県総合教育センター　今日からやってみよう！特別支援学級におけるＩＣＴ活用

特別支援学級に在籍する子供の特性を生かしたＩＣＴ活用実践例がまとめられています。

○文部科学省　発達障害のある子供たちのためのＩＣＴ活用ハンドブック

発達障害のある子供たちの障害特性や困難さ、それらに応じたＩＣＴを活用した支援について詳しく説明されています。特別支援学級編（兵庫教育大学）・通級指導教室編（宮城教育大学）・通常の学級編（筑波大学）と場面ごとにまとめられています。

○ソフトバンク株式会社　魔法のプロジェクト

プロジェクト（成果報告書）　アプリ紹介

全国の特別支援学校や特別支援学級、通級指導教室、通常の学級等で、障害のある子供たちにＩCT を活用して有効性を検証するプロジェクトです。学習に困難さのある子供たちのためのアプリ紹介や多数の活用事例が報告されています。

○文部科学省　特別支援教育におけるＩＣＴの活用について

それぞれの障害特性に応じた困難さや支援の方法について、障害種別ごとに１ページにまとめられている分かりやすい資料です。

独立行政法人
国立特別支援教育総合研究所
NISE National Institute of Special Needs Education

★ＮＩＳＥのホームページ
https://www.nise.go.jp/nc/

編集　情報・支援部
ＴＥＬ　046-839-6803（代表）
初版発行　令和４年１０月